

みなさん、こんにちは。日本ではもうじき桜が咲き、お花見のシーズンに入る頃でしょうか。カナダでも徐々に気温が上がって湖の氷や雪が溶け出し、春の訪れを感じています。それと同時に私の日本への帰国までの残り日数がついに 100 日を切りました。着々と迫っている帰国日を笑顔で迎えられよう、1 日 1 日を大切にしていきたいところです。

そこで今回のレポートでは、3 月に経験したカナダらしいことをお話ししたいと思います。まず一つ目は、身の回りで様々な生物を見かけるようになったことです。暖かな日が増え、人間だけでなく動物の活動も盛んになっています。春休みにはよく近くの大きな公園に散歩に行っていたのですが、鳥やリスの姿が多く見られます。公園といっても道のみ整備された森のような自然そのもので、小川のせせらぎや小鳥のさえずりが聞こえてきます。情報に溢れた現代社会で、このような自然に触れるのはとても貴重な機会だと思います。しかしながら散歩に出かける時、ホストファミリー宅の隣の往来で熊が出た為に熊よけ鈴とスプレーを手渡された時は少々気後れしました。加えて、家の中に蟻が出るというトラブルに悩まされた月もあります。ホストファミリーに尋ねれば蟻が家に出現するのは毎年恒例のイベントだそうで、特に気にする事はないといった様子でした。しかしながら、トイレに行っても自分の部屋に行ってもリビングに行っても蟻とご対面するという文字通り蟻地獄に直面した私はしばらくの間眠れない夜を過ごしました。枕元や引き出しからその存在を確認した時の恐怖といえそこらのホラー映画を優に超えるものです。駆除剤や蟻トラップによる対処のおかげでその大惨事は解決することが出来ました。生物の授業では現在”Diversity of Living Things”（生物の多様性）を学んでいますが、こんな形での学習は勘弁してもらいたいです。体得する、肌で感じるというのはこの様な経験を指すのでしょうか。

そして二つ目は、アウトドアクラスでのカーリング体験です。カーリングはカナダで人気のスポーツで、高度な戦略とテクニックが必要なことから「氷上のチェス」ともいわれているそうです。私にとってカーリングのイメージは 6 年ほど前にカーリング女子日本代表の言葉が流行語大賞にノミネートしたことぐらいで、ゲームプレーの仕方どころか基本的なルールさえも知りませんでした。実際、授業内での私のカーリングスキルは酷いものだったといえます。カーリングの靴にはホッケーやアイススケートの様にブレードが付いていないと聞いていたので、実際にリンク場に入る前は氷上でも安定して動くことが可能だと思っていました。しかし現実はそのような簡単なものではありませんでした。カーリングのストーンを投げるときには氷の上を滑りやすくする為のスライダーというものを装着します。この効果はとても大きく、私は投球時にほぼ毎回と言っていいほど身体のバランスを崩して転びました。画面越しだと自分でも出来そうだと思うが実際はそんなことない、というものです。中々難しいカーリング、日本ではあまりプレー出来ないウィンタースポーツなので良い経験になったと思います。

外に出かけて自然を楽しむこと、アウトドアのクラスでカーリングを体験すること、どちらも自分の意志なしでは出来なかったことだと思います。今後に残り少ない留学期間を充実させたものにするため、自分から素晴らしい経験のチャンスを掴んでいきたいです。

三月の活動の様子です。



白鷗高校 16 期生 次世代リーダー育成道場 11 期生 N.W